

桑村小学校応援団会議！

桑村小学校 令和6年2月16日 No,32 文責 山地

第4回学校応援団会議を開催しました

2月9日(金)に、「第4回学校応援団会議」を行いました。

応援団員(学校運営協議会委員)の皆様には、3～6年生の5時間目の授業の様子を参観していただき、桑っ子たちの学びの姿を見ていただきました。

授業参観後、音楽室で「第4回学校応援団会議」を開催しました。



【会議の様子①】



【会議の様子②】

校長は挨拶で、1年間の学校応援団の活動に対するお礼と来年度の方向性についての協議をお願いしました。応援副団長の鈴木さんからは、忌憚のない意見で、来年度の桑っ子をどのように育てていくか考える場としたいとのご挨拶をいただきました。

協議に入るとまず、「桑っ子たちに何を身につけさせたいか」「どんな桑っ子になってほしいか」を確認しました。

校長から、令和6年度の教育課程をどのように考えているか説明がありました。

「これからの社会がどのように変化していくかを考えており、日本では人口が減少している。高度経済成長期は、人口が増えていき、ものを大量に作れば買ってくれる時代だった。しかし、今後はものを大量に作っても売れなくなってくる。

また、子供たちが大人になる頃は、Society5.0を迎えていると言われ、学校でもタブレット端末が導入されている。これからの時代を生きていくためにどのような力が必要とされるのかも大切にしたいと考えている。他人から指示をされて動くことはAIでもできることである。自分で考えて行動すること、当事者意識をもって主体的に活動できるようにならないといけない。そのためには、感じる心が大切である。この2年間「感性」を育むことを大切に教育活動を行ってきた。令和6年度も引き続き、「感性」を育むことを大切に教育活動を行っていく。豊かな自然体験ができることは、桑村小学校の大きな強みである。そこで、その強みを生かした持続可能な教育活動を行っていきたい。」

このような子供たちを育てるために、応援団としてどのような活動ができるのか①協働の輪の見直し、内容確認について、②サマースクールの在り方について、③運動会の地域参加種目について、④地域防災、お祭り、子供会と学校ができることについての4つのことについて検討することで探っていくことになりました。

【学校応援団会議で出された応援団員の意見】

①協働の輪の見直しについて

- ◆今年度は、PTAが中心となって「地域deわくわく体験」を行ったが、今後PTAだけで計画・実施していくことは厳しいように思う。地域の人を借りたり、地域の活動にのっかたりしていく方が継続できるのではないかと思う。また、地域の輪も広がるのではないか。
- ◆「函南駅北側を活性化しようという会」があり、夏にイベントを考えている。高学年だけでも親と一緒に参加してもらえればと思う。
- ◆安全面について、新入生に対する横断歩道の歩き方は実施していきたい。また、保護者に向けてシートベルトの正しい使い方やチャイルドシートの正しい使い方について伝える機会があるとよい。

②サマースクール（サマー道場）の在り方について

- ◆近年夏は暑く、学校に集まるのも心配される。そこで、地域にふったらどうかと考えている。塚本区では子供の居場所づくりで子ども食堂や学習の機会を作っているようだ。サマー道場を地域の公民館で行うのはどうだろうか。
- ◆公民館を開放してもらいサマー道場を行うことは可能だろう。しかし、人数が減り、各学年2人くらいになっている。友達と一緒に勉強できるということも、サマー道場へ行くモチベーションのひとつなのだろうが、同学年の子がいない道場ではどれくらいのモチベーションになるのかが心配される。学校にみんなで集まる方がモチベーションとなるのではないか。

③運動会の地域参加種目について

- ◆子供がやった種目をその流れで大人がやるような形ならばよいのではないか。
- ◆子供に聞くと、大人の出る競技があると子供は楽しいようである。今年も「借り物競走」でたくさんの大人が出てくれたことに驚いた。
- ◆親に出てくださいとお願いすればみんな出てくれるのではないだろうか。

④地域防災、お祭り、子供会と学校ができることについて

- ◆子供会は、人数の関係から存続することが難しく、自分の区も閉じてしまった。子供会をやっていたが、子供会に来ない子は全く来ない。子供が来たくても親が行かせたくなければ入らずに、その子が家の前で廃品回収等の活動をじっと見ていたことがあって、かわいそうだった。
- ◆各区で子供が少なくなっているのでも、桑村小学区をひとつと考えると、「桑っ子会」のようなものを立ち上げるとメリットはあるだろうか。
- ◆子供会が残っている区との関係を整理していく必要があるのではないか。

応援団員の皆様、貴重な意見をいただきありがとうございました。来年度の教育活動に生かしていきます。